



# かけはし

連合長崎大東・壱岐・対馬  
地域協議会  
大村市西三城町 9-1 勤労者センター内  
TEL 0957-48-6045  
発行責任者：川本良美  
2023年 9月4日 第29号

## 2023年度長崎県最低賃金

### 898円(45円引き上げ)で結審!

2023年度長崎地方最低賃金審議会は、労働者側と使用者側の激しい議論が交わされた。審議会で労側53円の引き上げを主張に対し、使側は23円を主張。数度の専門部会で連合方針を強く主張し、最終的に45円の引き上げに公益、労側賛成9名、使用者側反対5名となり、採決に至りました。

#### 審議にあたっての労側主張



最低賃金近傍で働く多くの労働者は、最低賃金が改定されないと賃金が変わらない立場の弱い労働者である。現在の853円では年収170万円には届かないという水準であることに加え、昨年から続く物価高の影響を最も大きく受けており、日を迫うごとに日々の生活に与える影響は深刻度をも増している。

このような状況下で、賃金が上がらないとなると生活できないところまで来ており、最低賃金を確実に引き上げていく事は従来以上に必要と考えている。

労側として53円の引き上げを主張。この根拠は、連合の有期短時間・契約等労働者(全国)の2023賃上げ結果52.78円を四捨五入した額であり、連合

が労使交渉を踏まえて出した結果、しかも最低賃金という観点で、働き方として近い労働者の結果を最低賃金に波及させたいという考えで最後まで粘り強く主張を続けた。

一方、使側は中賃の目安に不満を強く持ち、労側は消費者物価ばかりを主張するが企業物価に目を向けるべきと、使側は23円を主張し続けた。

(今年のCランクの目安は39円)

※「最低賃金」は各県で審議されるが、そのベースとなる中央最低賃金審議会の出した今年を目安額は、本県Cランクは39円の引き上げであった。労側は「全国800円台の解消」を目指すとして47円の主張をした。使側の案として「発効日を1月1日」に先延ばしするならば引き上げ可能との見解も出された。発効日先延ばしについては連合として受け入れられないと改めて拒否した。

※ 最終的に公益見解としては、45円引き上げて、令和5年の最低賃金を898円とすることが確認されました。

○公益見解 45円引き上げ898円

○発効日(法定)2023年10月13日

**最低賃金**は国が法に基づいて定める賃金の最低額です。

下回ったら法律違反!



# 2023「平和行動 in 広島」報告

## 「平和行動 in 広島」に参加して

宍道ブロック(宍道市職員組合) 澤田 員儀

昭和20(1945)年8月6日、広島市上空に原子爆弾が投下され、約14万人の尊い命が一瞬のうちに奪われた。今もなお、多くの被爆者が放射線障害に苦しんでいる。このような悲劇を二度と繰り返されないように私たちは訴え続けなければならない。

今回、「平和 in 広島」に長崎団の一人として参加するという、大変貴重な機会を得た。5月には、平和労働センター主催の「平和行動 in 沖縄」にも参加させていただき、多くの学びを得ることができたので、今回の活動を通して、さらに平和について学びを深めたいと考えながら参加した。

8月5日(土)

### ① 広島平和記念資料館

一発の原子爆弾が、広島市内を破壊した。建物は壊れ、一面焼け野原となった。そこで生活していた市民の多くが、一瞬で命を奪われたのである。強烈な爆風によって倒壊した建物の下敷きとなったり、高度の熱線によって火傷を負ったりと、人的被害は甚大なものであった。川には水を求める人が溢れかえり、そして亡くなった。また、命を取り留めた後、放射線を含む黒い雨を浴びて白血病に苦しむ被爆者、被爆2世の方々の様子や思いを、写真や手紙などの資料を拝見する中で、その悲惨さや耐えがたい苦しみ、悲しみが伝わってきて、非常に胸が苦しくなった。

### ② 被爆路面電車 乗車学習会

原爆の被害を直に受け、今もなお、人々の足となり、運行されている被爆路面電車に乗り、連合広島の青年委員会のガイドのもと、沿線の被爆建物や遺構を巡るツアーに参加した。広島市には以前も訪れたことがあり、路面電車にも乗ったことはあったものの、被爆路面電車のことは知らなかった。原爆投下時にも市内を走っていた被爆路面電車に実際に乗ることは非常に感慨深く、また、当時の広島の状況を詳細に聞くことができたので、非常に参考となった。



### ③ 被爆78年「連合2023 平和広島集会」

「連合2023 平和広島集会」を実施され、全国各地から参集した仲間達約2,000人が広島上野学園ホールに集結した。

被爆を語り継ぐ会 箕牧智之さんを招聘し、箕牧さんの被爆体験を聞くことができた。また、戦後78年となり、被爆を体験した方々が亡くなっていく中、当時の状況を話すことができる人が減ってきたことを、箕牧さんは危惧されていた。いずれ、自身の被爆体験を語る人がいなくなる時代がくる。私たちが、原爆の非人道性や恐ろしさ、そして被爆者の思いを語り継がなければならないし、そのために学び続けなければならないと強く感じた。

また、高校生平和大使の取組について事例発表が行われた。核保有国は保有する核兵器を維持し続け、核実験を強行するなど核廃絶に向けた具体的な取組の姿が見られない。核兵器は人間を幸せにするものではない。核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えるため、高校生平和大使は署名運動を展開し、平和大使として国連の核軍縮に関する会議へ参加している。高校生自らが平和実現に向けて活動し、それが継承されていくことに若い世代の力を感じた。

### ④ 連合・原爆死没者慰霊式

原爆ドーム前にて、「平和行動 in 広島」の一環として、献花・献水を行いながら、原爆の被害で亡くなった方々を追悼した。さまざまな活動を経ての慰霊式参加ということもあり、非常に身の引き締まる思いをもつとともに、改めて不戦の誓いを新たにした。

8月6日(日)

### ①平和の鐘 打鐘式

1995年、連合長崎は被爆50周年事業の大きな柱として、「長崎平和の鐘」の製作を行い、広島市へ寄贈した。今回、「長崎平和の鐘」が設置された広島市立大学のキャンパスを訪問し、原爆投下時刻である8時15分に打鐘式を行い、祈りを捧げた。



2泊3日で参加させていただいた広島平和行動は、私が知らなかったこと、今まで体験できなかったことの多くを実際に肌で感じながら学ぶことができ、非常に有意義なものであった。最も強く感じたのは、平和はそこにあたりまえにあるべきものであるが、簡単に奪われかねないということ、人々の平和を希求する強い思いと行動によって築き、守りつづけなければならないものであるということだ。今ある日常を一瞬に奪い去ってしまう核兵器。もしも今、その核兵器が使用されたら…。あの日の広島と私自身の今を重ねて考えると、それは想像を絶するものであり、そして実際に体験された当時の方々の苦しみ、悲しみ、怒りに、改めて思いを馳せることができた。

世界各地で紛争が起こり、未だロシアによるウクライナ侵攻の終わりが見えず、核の脅威に世界が脅かされている今、世界唯一の被爆国として日本の果たすべき役割、被爆地長崎県に生きる一人として果たすべき役割は大きく、世界からも注目されている。平和を希求し、さらにはあたりまえのものとして実現し、守り続けるために、私自身がすべき今後の平和の取組を活性化していきたいと強く感じている。

## 2023「平和行動 in 長崎」報告

平和行動 in 長崎については、1945年8月9日午前11時2分、米軍によって原子爆弾が投下され、約7万4,000人が亡くなり、約7万5,000人が重軽傷を負ったほか、今も多くの人が後遺症に苦しんでいます。長崎の地から世界に向けて平和の祈りを込め二度と核兵器が使われないよう訴え続けています。私たちは、世界各地で緊張感が高まる時だからこそ、「長崎を最後の被爆地に」を合言葉に、連合2023平和ナガサキ集会在開催されました。8月8日(火)15時30分より長崎県立総合体育館メインアリーナにおいてコロナ前の開催規模で3,000名を超える参加者で予定でしたが、台風6号の関係で県外からの参加者の参加が難しくなり、約1,200名程度で開催されました。平和ナガサキ集会是、「被爆者の訴え」「若者からのメッセージ」「平和アピール」「ピースフラッグ」、など核兵器廃絶に向けて語り継ぐ大切さを世界に発信しました。地協からの参加は、壱岐・対馬ブロックからは台風の関係で参加を見合わせ約45名で参加しました。

8月9日(水)に予定されたピースウォーク・万灯流しは台風で中止となりました。





## ナガサキからの平和アピール(案)

たった一発の原子爆弾により、一瞬にして7万人を超える尊い命が奪われ、焼け野原となって78年。今もなお、被爆の後遺症に苦しんでいる方々がいる。「もう二度と被爆者を作りたくない」「地球上から核兵器をなくしたい」という強い願いにもかかわらず、今なお、私たち人類は核兵器の脅威にさらされ続けている。

国際社会に目を向ければ、ロシアによるウクライナへの軍事侵略は未だ終結の兆しすら見えず、北朝鮮による度重なるミサイル発射など、今この時も世界の平和が脅かされている。世界から核兵器をなくそうと、積み重ねてきた人類の努力の成果が次々と壊され、核兵器が使われる危険性が高まっている。これらは、核兵器がもたらす生き地獄を「繰り返してはならない」という、被爆者の強い思いや必死の努力を踏みにじるものであり、断じて許されない。私たちは、暮らし、働く、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識し、戦争体験や被爆体験を語り継ぎ、平和を守る努力を続けていかなければならない。

核兵器廃絶そして世界の恒久平和の実現に向けては、世界各国の対話はもちろん、核軍縮・不拡散をめぐる議論の中核を担ってきたNPT体制の維持・強化に向けた、一層の努力が必要である。本年5月、被爆地・広島においてG7サミットが開催され、核兵器保有国を含む世界のトップリーダーが広島平和記念資料館を訪れた。各国のリーダーには、核兵器の恐怖と悲惨さ、実相を強く胸に刻み、核兵器廃絶に向けたリーダーシップを発揮することを強く期待する。そして、世界で唯一の戦争被爆国である日本政府には、「核兵器のない世界」を実現するため、自らの役割と責任を果たすことを強く求める。

連合は、原水禁、KAKKINとともに、毎年、核兵器保有国の駐日外国公館に対して、核兵器廃絶に向けた要請行動を展開するとともに、全国各地で原爆写真ポスター展や平和学習会を開催するなど、核兵器の恐怖と非人道性を強く訴え続けている。

私たちはこれからも、核兵器廃絶と恒久平和の実現をめざして、原水禁、KAKKINをはじめ平和首長会議や国際労働組合総連合(ITUC)、長崎大学や長崎外国語大学などの教育機関、関係NGOとの連携を強化していく。そして、平和を願うすべての仲間の力を結集し、粘り強く運動を展開していくことをここに宣言する。

2023年8月8日

連合2023平和ナガサキ集会